

右三叉神経第1枝帯状疱疹に伴う 両側頸部リンパ節炎

しん 進 どう 藤 まさ 真 ひさ 久¹⁾ すみ 角 しょう 昇 へい 平¹⁾
むら 村 た 田 あき 明 みち 道²⁾

キーワード：帯状疱疹，頸部リンパ節炎，菊池病，
組織球性壊死性リンパ節炎，発熱

要 旨

70歳代女性。左顔面頭部の疼痛を伴う紅斑，水疱，痂皮，発熱，両頸部腫脹を主訴に近医より紹介された。右乳癌，甲状腺癌の既往歴あり，初診の1ヶ月前に右乳癌の手術を行った。初診の3日前より左頭部に痛みが生じた。翌日，37.7度の発熱あり，両頸部が腫脹してきた。臨床検査では，白血球軽度上昇，分画では好中球，単球が軽度上昇し，リンパ球，好酸球は低下していた。CRPは上昇していた。

BUNは正常だったが，クレアチニンは上昇し，腎障害がみられた。CTでは両耳下腺部の腫脹，頸部リンパ節腫脹がみられたが，アミラーゼは正常であり，腺内リンパ節炎，頸部リンパ節炎の可能性を考えた。アシクロビル点滴により，皮疹は軽快したが，両頸部の腫脹は続いていた。細菌性頸部リンパ節炎を念頭に抗生剤の点滴を行った。頸部腫脹，リンパ節腫脹は改善傾向がみられたが，発熱は続いていた。亜急性壊死性リンパ節炎を疑い，ステロイド点滴を行い軽快した。

はじめに

頭部帯状疱疹で皮疹付近の片側頸部リンパ節の腫脹はよく経験するが，今回，皮疹部から離れた両側耳下腺部のリンパ節腫脹がみられた。その臨床経過から，帯状疱疹を誘因とした組織球性壊

性リンパ節炎の可能性も考えられた。組織球性壊死性リンパ節炎は，菊池・藤本病，亜急性壊死性リンパ節炎ともよばれている。発熱と頸部リンパ節腫脹を特徴とし^{1,2)}1972年に菊池・藤本らにより報告された。リンパ節生検によりリンパ節内の組織球浸潤と壊死像により確定診断される。原因不明だが，ヘルペスウイルス群の感染が誘因とも考えられている。

Masahisa SHINDO et al.

1) 浜田医療センター皮膚科

2) 同 耳鼻咽喉科

連絡先：〒697-8511 浜田市浅井町777-12